

メールレター(18)

モントリオールでは、70年来の猛暑が続き喘ぎながら暮らすかと思えば、突然良い子を取り戻したかのように快適な24-25度が続いたり、まさにジェットコースター(montagne russe)のような気候に振り回されています。観光客は、この気候のなかでもめげもせず、アフリカの蟻の大群のように、黒い太い列となり、街中を通り過ぎていきます。オールドモントリオールの港には豪華客船が何艘も泊り、週末には、何千人もの観光客が吐き出されてきます。ジャズフェスティバルがあり、花火があり、美味しいレストランもありのモントリオールは人気の観光地のようです。

こんなモントリオールを後にして、先週は、ここから車で1時間半ほどのイースタウンシップと言われる一角にあるオーフォード山に行ってきました。近くにはマゴグ湖など美しい湖沿いに高級別荘、住宅、ホテル、レストランが立ち並びます。ここは基本的には英語系ですが、実際にはバイリンガルです。このオーフォード山はスキー場でも有名な国立公園です。この山の麓で毎年しゃれたミュージックフェスティバルや音楽を学ぶ若者などのためのミュージックキャンプが行われます。今年は、ミュージックフェスティバルの活性化を図り、文化行事を執り行うことになったようです。テーマは日本文化です。昨年、このフェスティバルの組織委員会からいけばなデモンストレーションの依頼があり、アシスタントとコメンテーターを連れ、おばさんチームは、このど深い山の中に出掛けていきました。道案内はほぼ無く、Googleマップも役に立たず、道を聞きたくても人影はなく、ぐるぐる迷うこと1時間。おばさん達は、熊や狐に出会うのではないかと懸念しながらやっと、目的の会場となっているレストランにたどり着いたのでした。

あたりは松風が騒ぎ、テラスでは若者が楽しそうにおしゃべりをし、はしゃいでいました。このキャンプで音楽を勉強している人達でしょう。その中にただらに群れる、やや老いたおじさん、おばさん達は、どうやら、いけばなのデモンストレーションを見に来た人達らしいとわかったのは、後ほどまた顔を合わせた時でした。お互いクスッと笑いあってしまいました。このデモンストレーションはどうやら、有料。やがて会場はもの見事に埋まってしまいました。イギリス系の人達は、庭を大事にし、草花を愛でます。この付近は庭作りの美しさでも定評があります。それを頭に入れながら、わかりやすく美しく、日本的なダイナミズムのある、デモンストレーションを企画してみました。曲げたり折ったり溜めたりするたびに、観客はこれからこれをどうするつもりなのだと思いをのむのでした。6杯ほど活けてデモンストレーションは完了。この間、コメンテーターは、いけばなの要素や歴史など様々な説明をしていました。

コメントのポイントは

「何より、退屈している観客を眠らせないことだから。いけばなについて聞いている人はほんの一部だし、すぐ忘れるから。」

と打ち合わせ、コメンテーターと阿吽の呼吸で進めていきます。アシスタントはデモンストレーターのお世話係りです。この3人の呼吸合わせが素晴らしかったと後ほど言われました。観客はいけばなを見たこともない人達が大半です。剣山や花器の説明から入ります。最後は、フェスティバルの組織委員会の一人に簡単な活け方のワークショップを皆の目の前で手取り足取りして、いけばなを身じかに感じてもらいました。それから質問時間に移ります。いけばなや、日本文化全体や活け方の技術や水揚げなど山のような質問でできます。好奇心に満ちた質の良い答えるのが楽しい質問でした。おばさんチームは、いけばなを広めるミッションを背負い、楽しみながらがんばりました。

ドリトル先生ですか？ ドリトル先生は、鬼妻のいぬ間にゆったりと羽を伸ばし、船遊びに余念がなかったらしく、帰ると、ゆでだこのように真っ赤に日焼けした顔でソファーに寝転んでおりました。今日は、マギル大学体育館でモンリオール剣道大会開催中です。1日中、剣道連盟の会長さんのお仕事に励んでおります。